

2016年12月7日

株式会社 富士キメラ総研
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町
1番5号 PMO 日本橋江戸通
TEL.03-3664-5839 FAX.03-3661-1414
http://www.fcr.co.jp/

広報部 03-3664-5697
http://www.group.fuji-keizai.co.jp/

医療情報システム/サービス、診断・計測装置、手術室関連機器/システムなど メディカルソリューション市場を調査

2020年市場予測

国内メディカルソリューション市場は1兆4,300億円(CAGR1.2%:2015-2020)

・・・4K・8K技術活用機器や国産手術支援ロボットなど、手術室関連機器がけん引し拡大

注目市場

手術支援ロボットは2015年比3.0倍の135億円、遠隔医療システムは同81.8%の20億円

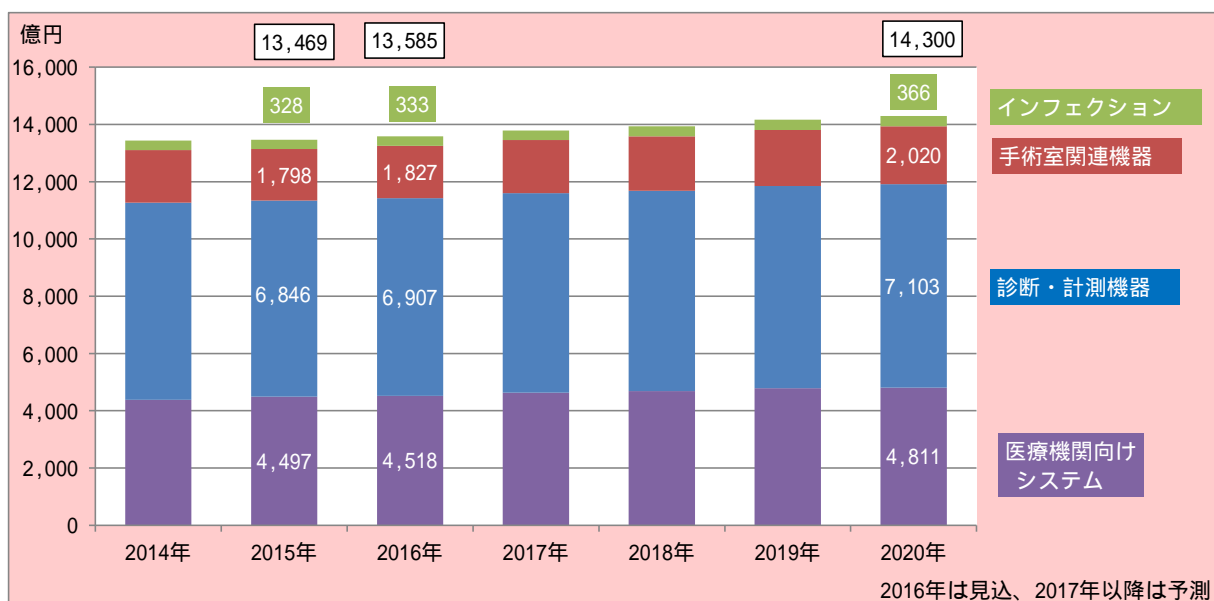
・・・手術支援ロボットは日系企業の参入も始まり、遠隔医療システムは厚労省が活用を広く認める方針

マーケティング&コンサルテーションの株式会社富士キメラ総研(東京都中央区日本橋小伝馬町 社長 田中 一志 03-3664-5839)は、病院情報システムや放射線科情報システム、遠隔医療システム、院内AVソリューションといった『医療機関向けシステム/ソリューション』、画像診断装置や検査装置などといった『診断・計測機器/装置』、外科用内視鏡や手術支援ロボットなどといった『手術室関連機器/システム』、高圧蒸気滅菌器や内視鏡洗浄消毒器などといった『インфекションコントロール(院内感染防止・制御)関連機器/システム』をメディカルソリューションとし、その市場を調査して、結果を報告書「**メディカルソリューション市場調査総覧 2016**」にまとめた。

この報告書では医療機関向けシステム/ソリューション13品目、診断・計測機器/装置23品目、手術室関連機器/システム9品目、インフェクションコントロール関連機器/システム5品目(計50品目)の市場を調査し、それをベースに国内のメディカルソリューション市場の全体像を明らかにした。また、医療ICT化動向、最新技術/サービストレンドの把握、世界の医療機器市場の現状と今後を展望した。

<調査結果の概要>

国内メディカルソリューション市場



医療機関向けシステム = 医療機関向けシステム/ソリューション、診断・計測機器 = 診断・計測機器/装置、手術室関連機器 = 手術室関連機器/システム、インフェクション = インフェクションコントロール関連機器/システム

2016年の国内メディカルソリューション市場は、調査対象50品目の市場規模8,003億円のおよそ1.7倍となる1兆3,585億円が見込まれる。大規模病院における医療のICT化や画像診断装置の導入が一巡したことから、横ばい推移が続いている。高齢社会を見据えた高度医療の実現に向けた取り組みが政府や関連団体主導のもと進められていることから、今後は4K・8K技術を活用した外科用内視鏡や国産手術支援ロボットなどの手術室関連機器/システムがけん引し市場が拡大していくと予想される。

医療機関向けシステム/ソリューションは、大規模病院では導入が一巡していることから、今後は中小規模の病院、診療所での普及が進展する。診断・計測機器/装置も導入が一巡しているため、X線関連装置の低線量化や画像診断装置の高画質化や次世代機器/装置など、ミドルレンジやハイエンドモデルへのリプレース需要の喚起が今後の市場拡大のポイントになるとみられる。インфекションコントロール関連機器/システムは、内視鏡検査や内視鏡手術の増加を背景にインфекションコントロールチームを設置する医療機関も増えてきており、今後の市場拡大が期待される。

注目市場

1. 手術支援ロボット

2015年	2016年見込	2020年予測	2015年比
45億円	51億円	135億円	3.0倍

内視鏡下手術を遠隔操作で行えるロボットや内視鏡操作を執刀医自らが行える内視鏡ホルダーロボット、執刀医の手ぶれ防止や疲れの軽減を目的としたロボットなどを対象とした。

2014年まで参入はインテュイティブサージカル「da Vinci」のみであったが、2015年にはデンスー、リバーフィールドがそれぞれ執刀医の負担軽減を目的とした製品を投入している。オリンパスや、川崎重工業とシスメックスの共同出資により設立されたメディカロイドなどでも製品開発を進めており、今後は日系企業の展開が活発になるとともに、「da Vinci」の対抗モデルとなる製品の投入も期待される。

2. 遠隔医療システム

2015年	2016年見込	2020年予測	2015年比
11億円	12億円	20億円	181.8%

ここでは在宅患者の診療補完などを目的としたTV会議システムやWeb会議システム(オンプレミス/クラウド)を対象とした。

2015年は8月に厚生労働省が遠隔診療の適用範囲(地域、疾患など)を必要以上に狭く解釈しなくてよいことを各都道府県知事に通達し、事実上、遠隔診療の活用を広く認める方針を打ち出している。これにより首都圏でも遠隔診療サービスを行う診療所が登場している。また、医療系IT企業が展開を始めたWeb会議システムを利用した遠隔医療システムが伸びており、2016年以降もWEB会議システムを利用したシステムを中心に市場が拡大すると予想される。2019年は10月に消費税増税が行われる予定となっているため、リプレースの前倒しや駆け込み需要が期待される。2020年には「Windows 7」の延長サポートが終了するため、Web会議システムはOSの入れ替え需要が発生するとみられる。

3. 手術映像記録/配信システム

2015年	2016年見込	2020年予測	2015年比
40億円	45億円	63億円	157.5%

手術場映像の録画、保存、再生、編集、リアルタイム配信などが可能なシステムを対象とした。学会での利用や研修医指導、またインフォームドコンセントや、手術の透明化による患者からの訴訟対策などを目的に導入が増えている。

主に病院の新設・改築、また手術室の改装時などのタイミングに併せて導入するケースが多く、2015年からはリプレース需要もみられ、市場が拡大している。手術映像記録/配信システムは4K対応から映像データの大容量化が進んでいるため、クラウドサービスの展開が期待されている。

セキュリティポリシーの観点から、現状ではクラウドサービスの導入に消極的な医療機関もみられるものの、サーバーを分散させることで災害対策を図れること、初期導入コストを低減できることなどメリットも多く、今後はクラウド化が進むとみられる。

4. 電子カルテシステム

2015年	2016年見込	2020年予測	2015年比
2,041億円	2,092億円	2,413億円	118.2%

電子カルテシステムは診療経過データを電子的に編集・管理するシステムである。およそ100社のベンダーが参入しており、ベンダーの提供形態別にパッケージ型とクラウド型がある。パッケージ型はセキュリティや安定的な情報維持の観点から導入する医療機関が多く、主流となっている。クラウド型はベンダーが少なく、市場規模も小さい。

2015年は、パッケージ型は中小病院で導入が増えた。また、レセプトシステムやオーダリングシステムの機能を併せ持つ多機能タイプの導入が増えた。2016年も引き続き中小病院の導入が増えているが、大病院の需要が低迷していることに加え、消費税増税の先送りに伴う財源不足から医療費が抑制された影響を受け、伸びが鈍化するとみられる。クラウド型は中小病院や診療所を中心に導入が増えている。

今後は電子カルテシステムが、拡充が進む地域医療連携の中核システムになる。大病院ではリプレース、また、中小病院や診療所では新規を中心に導入が進み、市場は堅調に拡大すると予想される。

世界医療機器市場

2015年	2016年見込	2020年予測	2015年比
34兆1,900億円	35兆5,000億円	44兆3,000億円	129.6%

市場は2015年に前年比6.0%増、2016年に同3.8%増が見込まれる。2015年は欧州や中東、アジア地域で需要が伸び悩んだが、北米で伸びたことから市場が拡大した。今後は新興国を中心にローエンドからミドルクラス製品の導入が進み、日本や欧米地域ではハイエンドクラス製品へのリプレースが進むとみられ、市場は堅調に拡大すると予想される。

米国は“オバマケア”による患者増、高齢化による医療ニーズの増加、先端医療についても積極的に展開されており、市場が拡大している。欧州は2015年に景気低迷などからイタリアやスペインをはじめ医療機器予算縮小がみられた。今後は先端医療を積極展開し、経済的にも堅調なドイツなどが欧州市場をけん引するとみられる。また、フランスなどでも遠隔医療への注力度が高まっており、関連機器の堅調な伸びが期待される。アジア(日本を除く)では医療機器が導入されていない地域も多く、新規導入が継続してみられる。中国では医療制度改革により、医療インフラ整備が進んでいる。また、インドは人口の急増に加え、生活習慣病が増加し、需要が伸びている。特に今後は中間所得者層向けの医療施設/機器の需要が高まるとみられ、世界市場の拡大をアジアがけん引していくとみられる。中東、中南米、その他地域では情勢不安な地域もあるものの、経済成長が続く国も多く、富裕層が多い地域ではハイエンド医療機器の需要も増加するとみられる。特に中東地域では肥満度が高く、糖尿病患者が急増していることから、各種検査装置などの需要拡大が期待される。

<調査対象>

医療機関向けシステム/ソリューション 13品目		
1. 病院情報システム ・ 歯科向け医療情報システム ・ 看護業務支援システム	・ 電子カルテシステム ・ 医事会計システム ・ 診療予約システム	・ 臨床検査情報システム ・ 地域医療連携システム
2. 放射線科情報システム	・ 放射線科放射線情報システム(RIS)	・ 放射線科画像保存通信システム(PACS)
3. 遠隔医療システム	・ 遠隔医療システム	・ 遠隔画像診断サービス
4. 院内AVソリューション	・ デジタルサイネージ	・ 病院TVシステム
診断・計測機器/装置 23品目		
1. 画像診断装置 ・ 眼底カメラ ・ 外科用X線撮影装置 ・ X線CT装置 ・ MRI装置	・ 消化器内視鏡 ・ OCT ・ マンモグラフィ ・ 血管造影装置 ・ 超音波画像診断装置	・ 一般X線撮影装置 ・ X線透視撮影装置 ・ SPECT/SPECT-CT装置 ・ PET/PET-CT装置
2. 検査装置 ・ 生化学自動分析装置	・ 遺伝子検査装置 ・ 尿検査装置	・ 血液検査装置
3. その他装置 ・ 3Dプリンター ・ 医療用レコーダー	・ 生体情報モニター ・ 医療用ディスプレイ	・ 3D画像診断ワークステーション ・ 医療用プリンター

手術室関連機器 / システム 9品目		
・ 外科用内視鏡	・ 手術支援ロボット	・ ヘッドマウントディスプレイ
・ 術野カメラ	・ 術場カメラ	・ 手術映像記録 / 配信システム
・ 手術用顕微鏡システム	・ 手術用ナビゲーションシステム	・ 麻酔管理システム
インフェクションコントロール関連機器 / システム 5品目		
・ 高圧蒸気滅菌器	・ 内視鏡洗浄消毒器	・ 医療用シーラー
・ 滅菌管理トレーサビリティシステム	・ 注射薬払出システム	

【調査方法】

富士キメラ総研専門調査員によるヒアリング及び関連文献、データベース活用による調査・分析

【調査期間】

2016年7月～10月

以上

資料タイトル	： 「 メディカルソリューション市場調査総覧 2016 」	
体 裁	： A4判 366頁	
価 格	： 120,000円+税	
	CD-ROM付 140,000円+税	
発 行 所	： 株式会社 富士キメラ総研	
	〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町1番5号 PMO日本橋江戸通	
	TEL：03-3664-5839(代) FAX：03-3661-1414	
	URL： http://www.fcr.co.jp/ e-mail： info@fcr.co.jp	
調 査 ・ 編 集	： 研究開発本部 第一研究開発部門	
	TEL：03-3664-5839 FAX：03-3661-1414	
この情報はホームページでもご覧いただけます。 URL： http://www.group.fuji-keizai.co.jp/		